

自治体SDGs推進のための有識者検討会（第4回）の開催結果について （概要）

○日 時：平成29年10月25日（木）13:00～15:00

○場 所：永田町合同庁舎 7階特別会議室

○出席委員：村上座長、秋山委員、蟹江委員、城山委員、関委員、竹本委員、
仲條委員、藤田委員

○主な意見：

1. 第7回「環境未来都市」構想推進国際フォーラム結果報告

○ この1年間でSDGsの普及が前進していると感じた。冒頭の基調講演においても、政府からのサポートについて力強い発言があり、弾みのついた会議だった。また、海外からの登壇者もハイレベルな方々で非常に意義のあるものであったと思う。

○ 同感である。この1年間で自治体の方々にSDGsに対する理解、関心が高まったと感じた。

2. アンケート調査に関する報告

○ 環境未来都市・環境モデル都市に対するアンケートは相当詳しい調査だったので、回答が大変だったと思うが、大変貴重な資料が得られた。

3. 平成30年度予算概算要求の概要について

特にコメントなし

4. コンセプトとりまとめ（案）について

○ よく整理されているが、専門用語の使い方の整理が必要。「SDGs推進」という表現が多用されているが、SDGsは目標であるので、「SDGs達成に向けた取組の推進」という表現が正しいと考える。

○ 「自治体SDGs」という表現も出てくるが、この定義づけをし、表記すべきではな

いか。

2

○ 用語の整理が必要。「達成」と言っても、全てのゴールの達成は不可能であるため、誤解の無いような使い方にすべき。

4

○ 8頁6行目 「(2) 成功事例の普及展開」において、第7回「環境未来都市」構想推進国際フォーラムでの総括でまとめた今回のフォーラムでの成果に触れたらどうか。

6

○ 13頁4行目 「(7) SDGsを活かした国内外への魅力の発信」について、同国際フォーラムで海外の有識者から、この取組（国際フォーラムの開催）が大変良かったので、アジアからの取組としてグローバルに繋げるようにとのコメントもあった。この点、具体的なアクションとして表現するといいいのではないか。

8

10

12

○ 13頁13～14行目 多様なステークホルダーの参加という論点で、民間事業者の参画が重要。11月に見直しが見込まれている企業行動憲章の話に触れるなど、より強調すべきではないか。

14

16

○ 13～14頁 (3)(6)は情報発信の話、(2)(4)はステークホルダーの話であるので、それぞれまとめるか、連続して書くべき。

18

20

22

○ 18頁 「SDGs未来都市（仮称）」の新しい取組は大変良い。実際にモデルを実施し、その評価やパフォーマンスをレビューし、フィードバックの方法などまで言及出来たら、なお良いと思う。

24

26

○ 19頁 次回のSDGsハイレベル政治フォーラムでは都市の取組が議題に上がるので、その場で「SDGs未来都市（仮称）」の取組を発信することを目指す旨を記載しても良いのではないか。

28

30

○ 広くSDGsを普及展開するために、環境未来都市モデルの手法を取り入れて、頂点を高めて裾野を広げる働きかけは良いと思うが、SDGsの達成のための事業が、環境未来都市の取組に引っ張られるのは良くない。その点、11頁28行目①～③のように具体例を挙げているのは良いと思う。また、総合計画など様々な計画に盛り込んでも良いし、指標を読み替えても良い、というSDGs活用の方法も提言したい。

32

34

○ 財政支援については、自治体にとって使いやすいものを期待する。

36

○ 地域活性化プラットフォームで構築したタスクフォースのような国の支援体制も構築

38

できれば良い。

- 2
- 内閣府だけでなく、省庁全体のタスクフォースとしてコンセプトをまとめたい。
- 4
- 自治体はSDGsをローカライズしたいと考えると思う。一方、SDGsは世界共通
- 6 であり普遍性があると思うが、その点をどう担保するかも整理すべきではないか。
- 8 ○ 9頁23行目以降で「環境未来都市」構想のモデル事業推進に関して言及しているが、
- 10 その普及のための水平展開について触れられていないため、次の「(3) 今後の展開と活用方策」でも触れるべきではないか。
- 12 ○ 滋賀県のイベントでは、民間企業が前向きであった。地域の企業の取組を、自治体が
- 14 統括して一定の方向に導くような提言も必要ではないか。
- 16 ○ 企業との連携も強調した方が良い。また水平展開についても追記が必要と考える。
- 18 ○ この文章が、誰に向けたメッセージかを整理すべきではないか。文章のボリュームに
- 20 ついて、当委員会の所信表明だったら良いが、自治体職員にこの文量を読んでいただけ
- 22 るか疑問。
- 環境未来都市の特徴として、自治体の組織が変わったことが大きな点だと思う。分野
- 24 横断的な執行体制が出来たことも環境未来都市の成果として強調すべき。
- 26 ○ 7頁に「公・民・学」との表現があるが、「産官学民」の4者の方が国際的に通用しや
- 28 すい。
- 環境未来都市・環境モデル都市向けの自治体アンケートで、自治体が課題面で挙げて
- 30 いる内容に対する解決策が書かれていない。自治体が苦しんでいるところへの課題解決
- 32 について、国の役割に言及するべきではないか。
- 情報発信について提案だが、吉本興業がSDGsに関するプロモーションビデオを作
- 34 ったように、若者を想定してデジタル媒体での発信を検討するべき。
- 誰に向けた文章かという点では、内閣府の役割も重要であるのでそこに向けたメッセ
- ージも必要。自治体の取組を評価するところまで書きこむべきではないか。また、内閣

府以外の他省庁も含めた国の役割まで言及すべきではないか。

2

○ 17 ゴールの全て追及する必要はなく、優先課題を入口に取り掛かれば良いという点もどこかに盛り込むべき。

4

○ 内外の動向について、国連や国の動きは紹介されているが、SDGsを進める上では「自治体こそが大事」という点がストレートには読めないのでは、冒頭にでも書くべきではないか。

6

○ SDGsは強制するものではなく、地域課題に応じて指標を皆に考えてもらい、それを具体的にして欲しいというのが一番大きい話だと思う。よって、多様な展開だけという一言だけでなく、多様性をもう少し膨らませてメッセージを伝えることができれば良いのではないか。

10

○ 11 頁 28 行目に「①都市のコンパクト化、②稼げるまちづくり、③公共施設等の集約化や空き家など」と具体的な例が書いてあり分かりやすいが、唐突感がある。この①～③に誘導して本当に良いのか整理が必要。

12

14

○ 環境未来都市の成果として、横断的な組織が形成されたことが挙げられる点は、先ほどの委員と同意見だが、今までの成果の部分（7 頁）に具体的に書くべき。環境未来都市のようなパッケージ化も良いが、モデル事業の内容が大事だと思うので、この点について深掘りすべき。SDGsの要素を加えた方が地方創生よりもマーケットが広がる、というメッセージを加え、モデル事業として海外に発信することも言及すべきではないか。

18

20

22

24

○ 11 頁の①～③に関しては、この委員会からの提言とミスリードされないように、事例として記載している旨を記載し、注釈として引用元も付記すべき。

26

28

30

○ 16 頁（5）「成功事例の発信は、自治体の責任である」という点は、自治体にとっては重たいのではないか。

○ 情報発信も自治体に担ってほしいと考えている。

32

34

◎次回予定：11月29日（水）15：30～17：30

36

以上